

社会的責任向上のための NPO/NGO ネットワーク 2013 年度 事業計画書

<実施期間>

2013 年 4 月 1 日～2014 年 3 月 31 日

<2013 年度の方針>

1. 社会的責任向上のための NPO/NGO ネットワーク（以下、本ネットワーク）として、民間非営利セクターをはじめとして、あらゆる組織の SR(社会的責任)向上に向け、NPO/NGO の視点から学習会、啓発事業、情報発信を実施し、SR の普及に努める。
2. SR の普及啓発活動に、より多くの NPO/NGO が参加することを促進する。特に、地域の会員団体の参加が得られるよう連携強化に取り組む。
3. SR の普及、啓発に関すること、および「社会的責任に関する円卓会議」（以下、「SR 円卓会議」）について政策提言事業を推進する。
4. 東日本大震災後の復興に関する取り組みにおけるマルチステークホルダーの実践にむけ、可能な範囲での助言・側面支援に努める。

<2013 年度の事業計画>

1. 啓発事業

[主旨]

日本における「SR のあるべき姿」の具体化へ向けて、引き続き ISO26000 の普及活動や SR 円卓会議での動きの報告・共有を行うとともに、特に、マルチステークホルダープロセス (MSP) 等の手法も活用しながら、国内における NPO/NGO の SR の取り組みを広げることにも主眼を置き、より地域に密着した SR の実践事例紹介や、自団体での取り組みを促すための発信・学習機会づくりを提供していく。政策提言事業や各会員団体の事業等とも連携しつつ効果的な啓発活動を行う。また、東日本大震災の被災地で活動する NPO 等とも連携しながら、復興プロセスにおける社会責任や MSP の概念の共有をめざす。

[担当幹事団体] 環境パートナーシップ会議、NPO サポートセンター、ダイバーシティ研究所、参画プラネット

[事業内容]

(1) 本ネットワークの政策提言につながる事業の共有、情報提供

- ・従来通り、ISO26000 の普及活動や SR 円卓会議での動きの報告・共有を行いつつ、今年度は特に、地域での MSP の活用や SR の実践事例をグッドプラクティスとして積極的に集め紹介するとともに、自団体、あるいは地域での SR の取り組みを促す機会を啓発事業として提供していく。

- ・SR フォーラム 2013 の開催：2013 年 5 月 10 日（金）東京にて開催。総会の開催を合わせた事業とし、広く会員を含む議論の場を設定する。

・発信の場づくり：5月のSRフォーラム2013の成果をふまえ、2013年11月のISO26000発行記念月間に地域での事例を集め発信できる機会の提供を行う。

(2) SRセミナーのコンテンツ・パッケージづくり

これまでに本ネットワークが作成したSRに関する冊子、あるいは本ネットワークが参画・関与して完成した冊子等を参考・ツールとして利用できるコンテンツやパッケージづくりについて、引き続き検討をしていく。

(3) SRセミナーの開催呼びかけ

引き続き、本ネットワーク内外へのセミナー開催を呼びかけていく。情報発信チームとの連携により、企画協力や講師派遣、出張サポート等の具体的な提案も行う。

(4) 東日本大震災の復興と社会責任、マルチステークホルダープロセスを考える事業の実施

被災地で活動に携わるNPO等と連携し、これからの復興におけるNPOの社会責任や、マルチステークホルダープロセスによる合意形成のあり方を考える事業を実施する。地元のNPOと検討しながら、セミナーなどの開催をめざす。

2. 情報発信・広報事業

[主旨]

国際的に、また産業界や政府機関などの他セクターでSRへの関心が高まる中で、NPO/NGOの意識向上を図り、行動に移すことは、NPO/NGOが社会的な信頼を得て、他セクターとの対話を促していくためには必須である。そのために、本ネットワークはSRの概念浸透、NPO/NGO間の連携、議論のプラットフォームづくりを目的に情報を発信する。

「啓発事業」や「政策提言事業」に関する情報を中心に、ウェブサイトやメーリングリストを通じた、タイムリーな発信を行う。また、より強固なネットワーク組織を目指し、会員獲得に努める。

[担当幹事団体] 難民を助ける会、日本NPOセンター

[事業内容]

(1) SR・ISOブックレットの販売促進のための広報活動の強化

主催・共催・後援イベント会場で販売する。また、ウェブサイトやSNSなどで、継続してブックレットを紹介する。

(2) 会員向け情報発信の強化

メーリングリストに加え、各種チラシも活用し、会員向けの情報発信を強化する。また、各事業担当者からの担当事業に関する情報発信を促し、組織活動全般について偏りなく定期的な情報発信ができるよう配慮する。昨年度リニューアルした本ネットワークのウェブサイトでは、事務局からの情報発信に限らず、会員の声を紹介するなど、会員を巻き込んだ広報に努める。

(3) 外部向け情報発信の強化

イベントに関するプレスリリースの発行や、各国際協力サイトへの情報公開などを行い、新規層の集客と認知度の向上を狙う。

(4) 会員獲得を目的とした広報

非会員の NPO/NGO を対象にしたキャンペーンの実施を通じ、NPO/NGO の SR への認知度や関心を把握するとともに、入会を呼びかける。

3. 政策提言事業

[主旨]

社会的責任に関わる国際規格 ISO26000 発行および JIS 化を受けて国内の普及、啓発に関すること、日本国内の動きとしての SR 円卓会議の 2 つに絞った形で政策提言事業を推進する。後者の議論には、本ネットワークの代表協議者を会議に派遣し、その内容を広く本ネットワーク会員をはじめとする NPO/NGO 関係者と共有する。

<ISO26000 に関すること>

日本工業標準調査会は JIS 規格として JISZ26000 を 2012 年 3 月 21 日に制定した。本ネットワークは、引き続き、橋渡し役として、ISO26000 の推進（普及、啓発、規格活用のチェックなど）に努めて行く。普及・啓発に関して、本ネットワーク内の啓発チームとの共同事業や連携も適宜行いながら進める。

<社会的責任に関する円卓会議に関すること>

代表協議者である総会委員や運営委員（本ネットワークとしては、6 名）を中心として臨機に協議し続ける。特に 4 つのテーマのうち 2 つのテーマについて主査を務めている本ネットワークとして、SR 円卓会議そのものの動向を見ながら的確にすすめる。代表協議者が委員として参加すると同時に、会員をはじめとした NPO/NGO に、広く情報提供や議論を行う機会を本ネットワーク内の啓発チームとの共同事業や連携も適宜行いながら進める。

[担当幹事団体] CSO ネットワーク、IIHOE（人と組織と地球のための国際研究所）、難民を助ける会、
日本 NPO センター

[事業内容]

(1) ISO26000 発行後の情報共有など

ISO26000 の活用方法や、普及に関して元国内委員会委員らと情報共有や意見交換を行う。

(2) ISO26000 の普及に対して、他セクターの元エキスパートなどと共同で啓発

引き続き、元エキスパート、国内委員会委員、NGO の国際グループなどの協力を得ながら、ISO26000 の普及啓発に努める。

(3) 社会的責任に関する円卓会議の各ワーキングの行動計画に沿った NPO/NGO の取り組みの推進

SR 円卓会議に本ネットワークの代表協議者が委員として参加すると同時に、NPO/NGO ステークホルダー間で意見交換を行い、積極的な提案につなげる。

(4) 社会的責任に関する円卓会議の行動計画のフォローアップ、協働プロジェクトの実施に向けたプロジェクトグループへの参加

6月に実施される総会に向け、協働報告書の作成を行う。各グループの責任の範囲において実施する各行動計画に沿った取り組みをフォローアップする。また、協働プロジェクトについても、引き続き、テーマごとにプロジェクトグループを結成し実施する。NPO/NGO ステークホルダー間で意見交換を行い、「地域円卓会議」の推進など、「協働戦略」の実現に結び付ける。

■人を育む基盤の整備ワーキンググループフォローアップ会合

2012年度中に枠組みを確定させている「持続可能な人材の育成に係る原則」を早期に完成させ、多様なステークホルダーへの普及や活用の支援をする。また他ワーキンググループとの連携・協働を検討する。

■地球規模の課題解決への参画ワーキンググループフォローアップ会合

2012年度にお送りした2回のイベントで挙げられた提案を受け、継続したイベントの実施や提言の作成などを検討する。

■ともに生きる社会の形成ワーキンググループフォローアップ会合

2012年度に第一版の完成をみた『『ともに生きる社会』のための暮らしやすさの10の指標』により多くのステークホルダーの合意を得るための改訂を加え、広く地域での活用を継続して検討する。

■持続可能な地域づくりワーキンググループフォローアップ会合

各グループと調整・連携しつつ、過年度に作成した冊子「円卓会議のススメ」や、各地域で作成している地域円卓会議の運営ノウハウ集などを活用しながら、地域での円卓会議開催を支援する。

2013年度組織運営（事務局業務）計画

<実施期間>

2013年4月1日～2014年3月31日

<業務計画>

1. 会議等の業務

(1) 第6回 通常総会の開催

日 時：2013年5月10日（金）10：00～11：30

会 場：早稲田奉仕園 スカイラウンジ

議 題：

- ・2012年度事業報告・決算の承認
- ・2013年度事業計画・予算の承認
- ・社会的責任に関する円卓会議委員の選出について
- ・その他

(2) 幹事会の開催

- | | | |
|----------|----------------|--------------|
| ・第57回幹事会 | 2013年4月16日（火） | 場所：日本NPOセンター |
| ・第58回幹事会 | 2013年5月21日（火） | 場所：日本NPOセンター |
| ・第59回幹事会 | 2013年6月18日（火） | 場所：日本NPOセンター |
| ・第60回幹事会 | 2013年7月16日（火） | 場所：日本NPOセンター |
| ・第61回幹事会 | 2013年8月20日（火） | 場所：日本NPOセンター |
| ・第62回幹事会 | 2013年9月17日（火） | 場所：日本NPOセンター |
| ・第63回幹事会 | 2013年10月15日（火） | 場所：日本NPOセンター |
| ・第64回幹事会 | 2013年11月19日（火） | 場所：日本NPOセンター |
| ・第65回幹事会 | 2013年12月17日（火） | 場所：日本NPOセンター |
| ・第66回幹事会 | 2014年1月21日（火） | 場所：日本NPOセンター |
| ・第67回幹事会 | 2014年2月18日（火） | 場所：日本NPOセンター |
| ・第68回幹事会 | 2014年3月18日（火） | 場所：日本NPOセンター |

2. 会員に対する業務

(1) 会員へのフォローアップ

- ・会員の入会、継続、休会等に伴う業務を行う。
- ・会員メーリングリストの運営と管理を行う。
- ・会員に対して、幹事会終了後、幹事会議事概要および次回幹事会日程をメーリングリストを通じて配信する。

(2) 会員データベース管理

- ・会員情報の整理と管理を行う。

3. 経理等の業務

(1) 日常的な会計

- ・円滑な業務執行を行うために、現金等の動きについて記録し、資金の動きを明確にする。

(2) 資金管理と検査

- ・現預金などの日常の管理状況を検査する業務を行う。
- ・より本ネットワークの資金状況を把握するために、決算を活動計算書に変更する。

4. 総務関連の業務

(1) ウェブサイト管理・運営に関する業務

- ・新サイトの管理・運営を行う。

(2) 什器備品等の管理

- ・什器備品の発注や管理等についての業務を行う。

5. その他

- ・インターンの業務内容、受け入れ体制などを再検討し、定期的に事務局業務をサポートするインターンを募集する。
- ・日本NPOセンターが事務局を担う。